

未来へつながる確かな安心をお届けします

肥後保険企画

定期便

check



©2010熊本県くまモン

2022年01月113号（毎月1回発行）

発行：肥後保険企画株式会社 監修：渡辺 時貞

〒862-0954 熊本市中央区神水1丁目3番13 Tel:096-213-8330 Fax:096-213-8331

日々の営業活動のなかで、ご縁をいただいた方々にお届けしています。
お忙しい毎日の“一息”としてお読みいただけましたら幸いです。

いつも

ありがとうございます



🌈明けましておめでとうございませう！
渡辺です。いつも定期便をご覧いただきありがとうございます。ありがとうございます。

▼昨年もまた世界中が新型コロナウイルスに翻弄された1年でした。

▼幸い弊社への影響は限定的で、業績も例年と変わらず終えることができました。これもひとえに皆さまのお力添えのおかげと感謝申し上げます。

▼今年も人員採用のほか、事務所移転などを計画しています。新事務所については現在打合せ中です。

▼ご契約者の皆さまにおかれましては、弊社経営理念の未来へつながる確かな安心をこれまで以上にお届けできますよう、社員一丸となって全力を尽くす所存でございます。本年もよろしくお願い申し上げます。

🌈私事ですが、ここ数年「乾癬(かんせん)」に悩まされています。人にうつることはありませんが、皮膚に皮疹が生じる慢性的な皮膚の病気で、日本には約43〜56万人の患者がいるとされています。

▼現在は、病院での対処治療しかないようなので、今年も食事療法を中心に改善しようと思っております。

▼オーガニックなライフスタイルを取り入れて、

体質改善です。

宜しくお願ひします。

🌈私事ですが、ここ数年「乾癬(かんせん)」に悩まされています。人にうつることはありませんが、皮膚に皮疹が生じる慢性的な皮膚の病気で、日本には約43〜56万人の患者がいるとされています。

▼現在は、病院での対処治療しかないようなので、今年も食事療法を中心に改善しようと思っております。

▼オーガニックなライフスタイルを取り入れて、

体質改善です。



宜しくお願ひします。

生命保険お役立ち一口情報

日本人の8割以上の人は何らかの生命保険に加入しています。保険に加入すると安心しがちですが、もしかしたら必要のない保険料を払っているかもしれません。保険会社による過剰なまでの保険広告も一因ですが、こちらの知識不足が大きな原因のように思います。



私たちには保険を選ぶための正しい方法を学ぶ機会がなかったので、勧められるままに保険に加入してしまった可能性があります。

保障を得ることと引き換えに、保険料というお金を支払っているわけですが、日本の社会保険制度は以外に手厚いものです。

これからはなんとなく保険を選ぶのではなく、保険会社を上手に利用するといった感覚が必要になってきます。



手書きなので枚数に限りはありますが、絵はがきをお届けしています。



だるまのモデルになった達磨大師が唱えた二入四行論には今できることから取り組み日々の中で誠心誠意を尽くすことが重要だと説かれ、この教えに従えば願い事や目標達成ができないことはない!!とのことだからだるまは縁起物として飾られるようになりました。

赤色は病気予防。黄色は商売繁盛。桃色は良好な人間関係を築くというご利益があるだるまを描いてみました。今年も一年皆さまの願いが叶いますように。



パワハラ対策 道半ば 相談件数は4割増!



職場のパワーハラスメントを防ぐ改正労働施策総合推進法(パワハラ防止法)の施行から1年半。パワハラ被害は増え続け、対応が不十分な企業は依然多いとされています。罰則がないといった防止法の甘さなどが解決を阻んでいるとの指摘もありますが…。

同法はパワハラを①職場の優越的な関係を背景にしている②業務上の必要な範囲を超えている③労働者の就業環境が害されている、の3要件で定義。企業に必要な防止の措置を義務付けました。相談窓口の設



置や、被害の申告に対する十分な調査などが想定されます。まずは大企業に適用され、今年4月からは中小企業にも対象

が広がります。

厚労省の統計では、20年度に精神疾患にかかって労災認定を受けた人は、前年度比19%増、相談件数に至っては43%増となっています。

原因別では「上司などからのパワハラ」が最も多く、また労働者と企業のトラブルを解決する「個別労働紛争解決制度」に関する相談件数は10年で2倍以上と増加傾向に歯止めがかからない状態です。

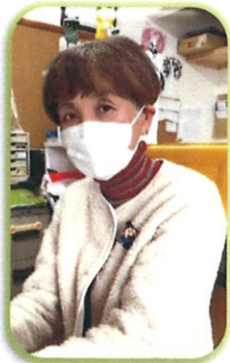
人材育成が最大の特長であったトヨタ自動車でも昨年、従業員のパワハラ自殺が労災認定されました。パワハラ防止法は、問題解決への第一歩に過ぎません。被害を広げないためのルール運用が極めて重要です。

お客様
インタビュー

今回は、熊本市南区川尻にある有限会社興和シートの和田社長の奥様にお話を伺ってきました。

——まず、事業内容と沿革をお聞かせください。

店舗等のイスの製造や張替えが主な事業で、現社長は2代目です。創業は昭和38年で40年に会社設立しています。創業時は体操服の製造をしていましたが、先代社長が自分の車に付けていた自作のシートカバーを見た友人の「それは商売になるよ」の一言をヒントにディーラーとの取引を開始し、シートカバー製作が主な事業へと変化しました。



和田千鶴様

——どのようにして今の事業へと変化されたのですか？

先代社長の甥だった主人が平成16年に社長に就任しましたが、しばらくして時代の流れとともにシートカバーの需要が無くなってきました。そこで社長が熊本や福岡の大手店舗内装関係の会社との取引を開拓

したことです。シートカバーにこだわっていたら、今には至らなかったかもしれませんね。

——鮮やかな経営判断と行動力ですね。ところで社長の従業員の方への対応という点ではいかがですか？

社長はおおらかな性格なので、従業員に対して「ああしろ、こうしろ」とはあまり言わず、自主性に任せていて、従業員への働きがいの提供は常に考えています。店舗改装などで納期もタイトで夜間作業もあって大変ですが、定着率は良い方だと思います。

社長が鹿児島出張ということもあり、今回は奥様にお話を伺いました。従業員の方が一緒に連れて来ているというインコの話し声?のなか、リラックスした雰囲気でのインタビューでした。「唯一、変化できる者が生き残るのだ」というダーウインの名言そのままに大変勉強になりました。ありがとうございました!

手塚治虫は「ジャングル大帝」にどんな思いを込めたのか



て、マンガの魅力を再認識する一冊です。

さらに影響を受けたデイズニアアニメ「バンビ」や手塚の創作ノートを分析し、幻の書き下ろし版から雑誌連載版への変換プロセスを丁寧に解き明かしていきます。ひとりの漫画家の創作過程を復元することで、時代の変化や読者の嗜好に合わせた姿が浮き彫りになって、マンガの魅力を再認識する一冊です。

現在、私たちが親しんでいるマンガの源流が手塚治虫により完成された「ストーリーマンガ」だということは広く知られています。

乱読コーナー